

謹賀新年

旅行産業と地域振興の発展に邁進します。
本年もよろしく願い申し上げます。



あけましておめでとうございます。今年の夏には、いよいよ、リオデジャネイロで2020年のオリンピック・パラリンピックの開催地として“TOKYO”にバトンが渡されます。国内でも「北海道新幹線開業」「伊勢志摩サミット開催」や「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録に向けた動きなど、注目のトピックスが目白押しです。新しい年を迎えて、JATAの各支部長に抱負を語っていただきました。

北海道新幹線開業を 需要喚起の更なる起爆剤に

北海道支部 池田 浩 支部長



昨年5月に実施された「日中観光文化交流団」による訪中では、日本から北京に約3000人が訪れて交流を深めました。北海道からは、全国の都道府県の中では最多の参加者が訪中し、オール北海道の意気込みを示すことが出来ました。また、11月には、ジャカルタで「日インドネシア交流の夕べ」が開催されるなど、海外旅行の需要喚起に向けて積極的に行動した年でありました。訪日旅行関連では、「アジアの宝 悠久の自然美への道」が「北海道」が観光庁による広域観光周遊ルート形成促進事業の認定を受けるという明るい話題もありました。

今年2016年は、何と言っても3月26日の「北海道新幹線開業」というビックイベントが控えています。

ツーウェイツーリズムを促進して旅行需要を創出することに取り組み、北海道新幹線による更なる需要喚起、訪日旅行の取り扱い拡大、そして、社会貢献活動などに本部と連携して取り組んでいき、業界発展と地位向上に向けて地域の観光振興に尽力してまいります。

仙台空港の完全民営化を契機に 業界の発展と地位向上を図る

東北支部 野崎佳政 支部長



昨年は役員改選期となり、新たな体制でのスタートとなりました。支部委員体制も見直し、海外旅行委員会に属していたインバウンド関連部門を、新たにインバウンド委員会として独立させ、国内・海外・インバウンドという3つの委員会活動として活性化を図りました。

貸切バス制度改定後の課題を集約した関係機関との意見交換会、仙台空港オンラインインキヤリアとの意見交換会、訪日外国人に東北へ来ていただくため東北観光推進機構が進める広域観光ルート構築への協力などに取り組みました。

今年も、全国から注目を集めている仙台空港の完全民営化がスタートします。

これを契機に、JATA東北支部の活動をアピールし、旅行業界の発展と地位の向上に向けて邁進してまいります。

行政や観光業界との連携強化で 喫緊の課題解決に取り組む

関東支部 大澤裕一 支部長

昨年は、急伸しているインバウンド消費、3月に開通した北陸新幹線など、明るい話

2016年は中部の年 観光振興と地域振興に邁進

中部支部 松本 博 支部長



問題も多くありましたが、その一方で、長引く円安や11月に発生したフランスパリでの同時テロ事件などの影響により、海外旅行に暗い影が差した1年でもありました。

今年3月の「北海道新幹線開業」などの明るい話題も控えています。先行きの不透明感はあるものの、先行きの厳しい環境が続く中ではありますが、関東支部では今年も、関東運輸局、北陸信越運輸局をはじめとする地方行政や観光業界との連携強化を図り、貸切バス新運賃料金制度改定に伴う地方観光地への送客減からの回復、広域連携によるインバウンド需要の都市部から地方への分散など、喫緊の課題を解決していくため、現場に軸足を置き、観光業界発展のために活動してまいります。

2016年は5月に予定されている「伊勢志摩サミット」の開催や、エアアジアジャパンによる中部国際空港を拠点

謹賀新年

支部長より新年のご挨拶

点とした国内線と国際線での運行開始などが控え、中部地域にとっては、大きな転換の年となりそうです。

また、5年目を迎える「昇龍道プロジェクト」の定着に伴って、静岡の「明治日本の産業革命遺産 富士山」反射炉「富士山」、岐阜の「白川郷・五箇山の合掌造り集落」、三重の「熊野古道」など中部地域における世界遺産への注目度が高まってくることも期待されています。

中部支部としては、会員の皆様と共に相互交流を深めつつ、観光振興と地域振興に取り組んでまいります。

「関西発」の盛り上げに 取り組む1年

関西支部 光山清秀 支部長

昨年、国宝・姫路城の「大天守保存修理事業」完了、高野山の



「開創1200年記念大法会」執行といった文化イベントに加え、関西国際空港を利用する訪日外国人旅行者の大幅な増加、和歌山国体の開催など、「関西着」の旅行が注目された1年でした。

本年2016年は、その「着」に加えて「関西発」をより一層盛り上げていきたいと考えています。

関西国際空港をはじめとする各関係機

関・団体と連携しながら、新たな旅行需要の創出、地域の活性化、人材育成、社会貢献活動などに取り組み、会員の皆様とともに支部活動を着実に推進してまいります。

大型イベント開催契機に 内外からの誘客を積極的に図る

中四国支部 大小田博之 支部長



昨年、観光庁の新たな広域観光周遊ルートとして「せとうち・海

の道」と「スピリチュアルな島々四国遍路」の2つが認定されたのをはじめ、松江城天守の国宝への正式指定、萩反射炉や松山村塾など萩の5資産を含む「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産登録など、話題の多い1年でした。

今年も引き続き、当地区で「晴れの国おかやまアステイネーションキャンペーン」(4〜6月)の実施や「瀬戸内国際芸術祭」(3〜11月)の開催が予定されており、急増する訪日インバウンド需要も含めた内外からの誘客を通じて、地域の観光振興に貢献していく所存です。

支部活動においては、業界のプレゼンス向上、訪日インバウンドへの正対、地区委員会活動の強化、観光人材育成の推進などにより、国や地域行政の「観光」と「JATA」に対する期待に応えたいと考えています。

会員相互の連携により

「元氣な九州づくり」に取り組み

九州支部 中津 功 支部長



昨年は、官営八幡製鐵所関連施設、端島炭鉱(通称「軍艦島」)、三重津海軍所跡、三池炭鉱万田坑、旧集成館(反射炉跡機械工場)旧鹿兒島紡績所技師館など、「明治日本の産業革命遺産」のうち九州内で16もの施設が世界遺産に登録されました。

また、本年も、順調にいけば「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録も予定されているほか、秋には長崎アステーションキャンペーン(DC)も開催されます。

外客大型クルーズ船の入港は、九州各港でさらに拡大するものと思われ、九州クルーズ振興協議会への協力などを通じ、受入環境整備にも尽力してまいります。また、好調なインバウンドの更なる取り扱い拡大のため、良質な受入体制づくりも行っていく所存です。

さらに、ONSEN ISLAND KYUSHUのブランド化推進への協力や、若年層の海外旅行拡大など、会員相互の連携により「元氣な九州づくり」に邁進してまいります。

「世界水準のリゾート地」へ さらなる進化を目指す

沖縄支部 東 良和 支部長



2015年は沖縄支部において、堅調な国内旅行に加え、インバウンドの大幅な増加で旅行・観光とも順調に推移しました。一方、宿泊施設や貸切バスの供給不足に加え、非合法的な民泊や悪質な免税店等、課題も浮き彫りになりつつあります。沖縄観光の健全な発展に向け、JATAの役割が大きくなるものと確信しています。

2016年は10月に「第6回世界のウチナーンチュ大会」が開催される予定で、世界の沖縄県系人が母県に参集し交流を深めます。

沖縄は地理的に東南アジアと本土をつなぐ日本の玄関口として歴史的に発展してきましたが、明治以降は積極的に海外移民を送り出し、今日ではハワイ、南米を中心に60万人の県系人が海外で活躍し今年ウチナーンチュ大会に集うのです。

県の掲げる「世界水準のリゾート地を目指す」を更に進化させて国際交流拠点となるよう、本年も行政や関係団体と連携・協力し、会員企業の発展を目指したいと思います。